

編集 後記

ここ数年間の公衆衛生雑誌への投稿原稿の大きな特徴は、さまざまな分野からの投稿という点だと思います。それだけ公衆衛生で取り扱う課題が増加し、なおかつ複雑化したのだと思います。実際、医学分野だけでなく、歯学、保健・看護学、社会福祉学、心理学、教育学などのさまざまな分野からの投稿がありました。これからの公衆衛生学会と学会誌の発展を考えた場合、学際的な交流は非常に重要になっています。たとえばわたくしの専門分野である精神保健のことを考えても医学、保健学、看護学の分野だけで社会のニーズに応えることはできません。社会福祉学、心理学などとの交流と協力が不可欠です。今後、どの分野を考えても学際的な拡がりなしには発展を考えることはできません。経済学、法律学、行政学、社会学などの協力も重要です。

それだけに編集委員としては困惑することがあったのも事実ですし、これからも対応に苦慮する原稿が投稿されることが考えられます。とりあえずお願いしたいことは、投稿規定にある事項は守っていただきたいということです。しかし取り扱う主題を明確に表現するためには、投稿規定を逸脱することもやむを得ないとの意見もあるようです。今後の発展を考えた場合には、投稿規定の変更、あるいは柔軟な運用が必要かもしれません。学会員の皆様、読者の皆様の間で討論していただければ幸いです。
(三野善央)

次号予告

原著

自立および準寝たきり高齢者の自立度の変化に影響する予測因子の解明

身体・心理・社会的要因から…蘭牟田洋美, 他
高齢者の QOL に対する身体活動習慣の影響

……………前田 清, 他
妊娠および授乳後の骨密度の回復に関する縦断

研究……………米山京子, 他
青年期女性における月経痛の頻度とやせとの関連

……………平田まり, 他

公衆衛生活動報告

選択メニューによる6つの生活習慣変容プログラム

職場における簡便な通信指導……国柄后子, 他
医学生の公衆衛生学・学外実習における地域志向

型教育の実施とその評価の試み……中野匡子, 他

資料

中華人民共和国の看護職者が捉えている高齢者の生活と健康に関する意識調査……藤田啓子, 他

大学生の生活習慣病に関する意識, 知識, 行動について……………門田新一郎, 他

ドイツのウイルス性出血熱輸入例対策

WHO 新興ウイルス感染症対策指針に基づく日本の現行システムとの比較……………田中 毅, 他

平成14年度「世界禁煙デー」および「禁煙週間」のお知らせ

1. 世界禁煙デー (World No-Tobacco Day)

日程：平成14 (2002) 年 5月31日 (金)

趣旨：たばこを吸わないことが一般的な社会習慣となるよう様々な対策を講ずるべきであるという世界保健機関 (WHO) の決議により1988年に初めて設けられ、1989年より毎年5月31日に定められました。

標語：厚生労働省は「世界禁煙デー」に関する標語を定めており、今年度の標語は「たばことスポーツは無縁 (無煙) です。一きれいにやろう！」です。

2. 禁煙週間

日程：平成14年 5月31日 (金) ～平成14年 6月6日 (木)

趣旨：世界禁煙デーに始まる1週間を「禁煙週間」と定め、各種のたばこ対策を推進します。

主唱：厚生労働省